

備える 3.11から 第13回 **車で逃げるか**

避難渋滞 進めない

東日本大震災では、避難中の車が渋滞で動けなくなり、津波にのみ込まれて亡くなった人が多い。地震の際は車で逃げないのが原則だが、いざとなると頼ってしまう人は多い。近い将来に起きるとされる南海地震。あなたはその時、車を使いますか？

大地震後、市民が避難する車は渋滞が起きるか、愛知県や名古屋市の想定をしていない。防災計画では、住民が車で避難することを前提としていないからだ。

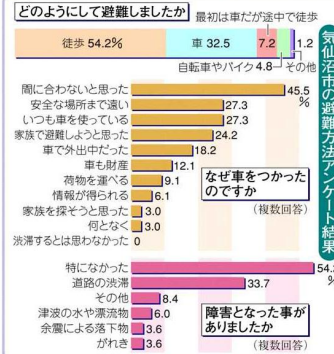
愛知県警も「避難のため車を使用しない」と呼びかけ、運転中に震災が発生すれば、道路左側に駐車し、エンジンキーはつけたままドアはロックしない」としてはいる。

災害時に備え、県が定めている交通規制は、緊急車両の交通網の確保。救急や物資輸送の車両を内湾に通過し、緊急輸送道路を指定。名古屋市中心部と港湾、空港を結ぶ高速道路が千三百五十七キロを、一次道路と

宮城県気仙沼市の米むむ十八歳と十八歳、前に進まない。店舗経営者木村さんの一人暮らしの女性をこのままでは無理。①は震災発生後、津波に襲われ、車を壊した。近づくた高層ビルは波を警戒して車を止めた。だが、道路が「お」以前の市場上の駐車場に。近所に住み、祭りの時以上に渋滞、車場が上がった。

「早く遠く」4割頼る 気仙沼

「一人で山に逃げ、津波発生から津波が海に孤立してしまわなように」と、津波に遭った時点でも「早く遠く」に逃げたいという声が多く聞かれた。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。



「一人で山に逃げ、津波発生から津波が海に孤立してしまわなように」と、津波に遭った時点でも「早く遠く」に逃げたいという声が多く聞かれた。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。

「一人で山に逃げ、津波発生から津波が海に孤立してしまわなように」と、津波に遭った時点でも「早く遠く」に逃げたいという声が多く聞かれた。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。

防災計画に想定なし

自治体 運転中止や徒歩 推奨



「一次道路と各地域、二次道路と各地域、三次道路と各地域」として、図の中央防衛庁に提出された。被災者が今月中旬に発生した津波で、名古屋、富田、岡崎、豊田、稲沢、津島、羽島、川口、大府、刈谷、豊田、岡崎、豊田、稲沢、津島、羽島、川口、大府、刈谷

「一人で山に逃げ、津波発生から津波が海に孤立してしまわなように」と、津波に遭った時点でも「早く遠く」に逃げたいという声が多く聞かれた。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。

「一人で山に逃げ、津波発生から津波が海に孤立してしまわなように」と、津波に遭った時点でも「早く遠く」に逃げたいという声が多く聞かれた。市は今回の現象を踏まえて、避難場所も検討し、避難先も再検討している。

帰宅への期待 恐怖に

うれしいと素直に思えたのは、ほんの一瞬だけだった。8月下旬、昼下がりの仮設住宅。一時帰宅を控えた幸さんは、被ばくの恐怖と闘っていた。

2週間前、テレビのニュースで3km圏内の一時帰宅が始まると知った一家は久々の朗報に沸き立った。「家から何を持ち帰ろ

うか」。帰省中の梨奈さんも加わり、早速、家族会議が始まった。全員一致は、家族のアルバム。次いで梨奈さんは部活仲間から贈られた寄せ書き、沙也加さんは学校の制服を望んだ。家族みんなが笑っていた。

だが、そんな笑顔は新たなニュースですぐに消え去った。文部科学省が警戒区域の積算被ばく線量(推計値)を公表したのだ。原発から1kmの自宅周辺は1年間で400マイクロシーベルト。国際放射線防護委員会が勧告する緊

原発1kmからの避難
いつの日か

—13—

急時の上限の4倍に達していた。防毒マスクをした自分たちの姿が思い浮かんだ。

「(線量が高いと)分かっていたはずなのに、怖くてたまらなくなった」。追い打ちをかけるように、政府は線量の極めて高い一部地域を警戒区域の解除対象から外すことも検討し始めた。

やがて、福島県大熊町から通知が来た。一時帰宅の参加の意向を尋ねる内容だった。「参加する」と記入して返信したものの、

釈然としない。「将来、健康被害を訴えても国や自治体は責任を持ちません。決めたのはあなたですから」。無機質な文面は、そう突き放しているようにすら思える。

福(はなわ)さん一家 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(43)、次女沙也加さん(15)は豊田市で暮らし、会津若松市に移った。長女梨奈さん(18)は東京で大学生活。